

事例2 食育推進に関する運動

平成18年～

「食育」に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、健康で文化的な国民生活と豊かで活力ある社会実現への寄与を目的として平成17年6月食育基本法が公布。食育白書の刊行や食育推進全国大会の開催等による普及啓発、栄養教諭制度を活用した学校における指導体制の整備、食生活改善のための「食育ガイド」の活用促進などの運動を展開。

内閣府 農水省 文科省

健全な食生活を実践できる人間を育成したい
国民の心身の健康の増進と、豊かな人間形成を行いたい

↓
 毎年6月を「食育月間」に制定。「食育月間」における全国規模の中核的行事として「食育推進全国大会」を開催。
 他に、「めざましごはんキャンペーン」や「フード・アクション・ニッポン」、「食育推進ボランティア表彰」などを展開。

企業・団体

CSRやフードビジネスとして活動
 カルビーでは小学校への出張授業を行ったり、ハウス食品では農業体験教室を実施したりと、企業などはCSRやビジネスとして「食育」を取り入れている。

超人シェフ倶楽部

一流のシェフが、学校栄養士、調理員とともにメニュー作りから調理までを行う「スーパー給食」を実施。
 「残食率を減らしたい」という学校の課題に寄り添ったり、調理現場とのコミュニケーションを密にしたり、保護者へ「給食だより」にてメッセージを送ったり、地産地消のメニューにして地域の連携を図るなどして取り組みを行っている
 ↓
生徒だけでなく、地域や保護者も巻き込むことで、子どもの意識を変える

学校

部活動の一環として活動
 食育推進ボランティア表彰受賞を目標として、部活内で取り組む

群馬県立富岡実業高等学校
野菜部

ボランティア活動として、野菜の栽培・収穫を小学生などに指導
 ↓
自身も指導する側に立つことで、自分ごと化させる

3. 北方領土返還要求運動の教育面における在り方に関する調査(事例調査)

事例2 食育推進に関する運動

活動カテゴリ	団体	テーマ	活動内容	概要
部活動での取り組み	群馬県立富岡実業高等学校野菜部		生徒による野菜栽培の指導	生物生産科の野菜部では地元小学生を対象に、園芸科学科の野菜部では幼稚園児を対象に、野菜栽培の指導を通じた食育活動を行い、交流を図っている。
部活動での取り組み	山形県立高島高等学校		調理研究部による運動部への食事作り	食育講話で学んだ「高校生アスリート食」を実際に合宿中の部活に対して調理研究部が作り、食育の実践を行うことなど
参加型	東京都杉並区立三谷小	生徒の意識を高める	生徒による説明	当番の児童が献立を説明
教室	学校	「夢に向かい頑張ろう」食育で児童にエール	有名人による講義	横浜MF斎藤学(25)が28日、横浜市立名瀬小学校で5、6年生約180人を対象に「食育教室」を開催。夢に向かって頑張った過去や、夢を持つことの大切さと伝える中で、食育の重要性を伝えた。
講義型	「弁当の日」応援プロジェクト	親が子にのこせるもの	子育てシンポジウム	食育・子育てシンポジウム「Food × Love =親が子にのこせるもの」を開催。助産師の立場で食育に取り組まれている内日美智子氏、「弁当の日」提唱者の竹下和男氏の講演に加え、12月公開予定の映画「はなちゃんのみそ汁」のショートムービーの上映、映画の原作者である安政信吾氏、はなちゃんを迎えてトークセッションを実施。最後に映画「はなちゃんのみそ汁」劇場鑑賞券のプレゼント抽選会も
講義型	立命館守山中高	保護者の意識を高める	保護者向け講演会	保護者向けの食育講演会を計画
参加型	宇都宮	食育の重要性をアピール	学校としてのイベント参加	第10回うつつのみや食育フェアを開催。多くの学校や地域団体、企業が参加。小さな子供たちがそば打ちの工程を体験できるコーナーや食に関するクイズコーナーがあり、ステージでは、中学生がな弁当コンクール入賞作品の調理を披露。
参加型	学校	オリーブの実を飼料にして育てた「オリーブ豚」の魅力や流通について知ってもらおう	食育授業	オリーブ豚の生産や流通学ぶ／湯濃中で食育授業
参加型	健康推進課保健係	野菜を食べてしあわせになろう!	講座・調理実習	ふんきょうHappy Vegetable大作戦 講座や調理実習を行っている
参加型	山形県立高島高等学校	全校生徒への意識付け	調理室展示	選択授業「フードデザイン」食育プログラム
参加型	山形県立高島高等学校	数値化してわかりやすい結果で生徒のモチベーションを上げる	全校生徒調査・ヘモグロビン調査	生徒のヘモグロビン検査・生活実態調査による実態把握及び効果の測定
体験型	イオン		体験学習	食育体験学習会、イオンふれあい農場を展開し、食育に触れ合うことで意識醸成。また、近隣の子どもたちでイオンチアーズクラブを結成し、活動を行っている。
体験型	超人シェフ倶楽部		一流シェフによる給食の提供	一流シェフによる給食の提供
その他	文科省		指定校	「スーパー食育スクール」の指定 学校が大学や企業、生産者、関係機関等と連携し、食育を通じた学力向上、健康増進、地産地消の推進、食文化理解など食育の多角的効果について科学的データに基づいて検証を行い、その成果を分かりやすく示し、普及啓発することで食育のより一層の充実を図る
その他	-		有名人の協力	日本ハム・大谷が北海道の食育に協力

事例3 献血普及に関する運動

昭和27年～

日本赤十字社では、献血の普及啓発を目的としたキャンペーンやコンテスト等を実施。「いのちと献血俳句コンテスト」や「二十歳の献血」キャンペーンといった全国規模の取り組みのほか、将来の血液事業を担う児童・生徒を対象とした赤十字社支部による地域活動(血液センター見学会「なるほど献血教室」(広島支部)、「献血の絵」ポスター展(神奈川支部)など)も実施。

日本赤十字社

血液の安定的な確保を図るため、国民各層に献血への理解と協力を促したい

い



「二十歳の献血」キャンペーンや、俳句コンテストなど、全国規模の取り組みを実施。

<二十歳の献血キャンペーン>

- ・ 新成人のアイドルやアスリートなどをキャンペーンキャラクターに起用し、メディア露出やSNSなど同世代に献血への協力と参加を呼びかける啓発活動を展開。
- ・ 音楽イベントを通じた献血啓発活動「LOVE in Action プロジェクト」(平成21年から実施)とも連動し、相乗効果を図ったメッセージ発信を行っている。

企業・団体

献血サポーターに登録

年1回以上の献血に協力



献血サポーターに登録することで、献血への意識が高まる

赤十字社支部

地域活動を実施

児童・生徒を対象とした、献血教室やポスター展を行う



地域での活動を行うことで、参加しやすく身近なものとして感じてもらおう

学校

献血出前授業を開催

血液センタースタッフによる献血に関する出前授業を行う



外部の人が講師としてくることで、日常で指導するよりも印象に残せる

3. 北方領土返還要求運動の教育面における在り方に関する調査(事例調査)

事例3 献血普及に関する運動

活動カテゴリ	団体	テーマ	活動内容	概要
部活動での取り組み	日本赤十字社		街頭キャンペーン	高校生献血街頭キャンペーン 羽衣学園ボランティア部員6名が参加
部活動での取り組み	日本赤十字社		街頭キャンペーン	高松南高等学校ボランティア部では、イオンモール高松での「高校生街頭献血キャンペーン」に参加。 高松地区の高校7校、総勢47名の高校生が活動し、はじめに血液について学び、DVDを視聴し、献血の必要性について理解を深めた
見学	日本赤十字社	若い世代への献血普及啓発	「なるほど献血教室」	将来の血液事業を担う小学生高学年とその保護者を対象として、毎年夏休みに血液センター見学会「なるほど献血教室」を開催。 教室では「けんけつちゃん」や「ちーびつと」の登場するスライドで血液・献血、血液センターの仕事を学習した後、血液センターを見学
講義型	日本赤十字社	情報共有	活動報告	兵庫県青少年赤十字研究会 各学校で取り組んでいる活動の報告。モデル校の活動報告
講義型	日本赤十字社	指導者の実践目標及び態度目標理解	校長への説明会	校長(教頭)対象青少年赤十字説明会 青少年赤十字の起こりや活用方法等の説明、赤十字活動指導講師による「国際人道法について」及び「世界の子どもの現状について」と題して国際救援派遣看護師の講演を実施
講義型	日本赤十字社	情報共有	総会	兵庫県青少年赤十字研究協議会(総会) 加盟校関係者、教育行政関係者20名が参加 活動計画、研究推進校の指定等について協議 「国際人道法」の講義 兵庫県青少年赤十字賛助奉仕団の市橋副委員長から指導助言
講義型	神奈川県	次世代に献血について知ってもらおう	夏休み小中学生親子献血教室	献血教室の開催
講義型	日本赤十字社		センター所長による講演	兵庫県赤十字血液センター姫路事業所の藤田嘉秀所長による授業が29日、加古川市立平岡中学校(同市平岡町新在家)であり、「献血は人の命を救うボランティア」と訴えた。 藤田所長は献血した8割は病気の患者に使われると説明。がんで亡くなった神戸の4歳男児の例を紹介し、母親からのメッセージを伝えた。
講義型	日本赤十字社		見学会	小学生向けの見学会の実施 市立清瀬小学校の8年生が、日本赤十字社近畿ブロック血液センター(彩都あさぎ七丁目)を訪れ、センター職員の説明を受けながら館内を見学
講義型	日本赤十字社	献血とボランティア	献血ゼミナールの開催	東京都立文京高校の視聴覚室で奉仕の授業として1年生319名対象の献血ゼミナールが開催
コンクール・コンテスト	日本赤十字社	若い世代への献血普及啓発	「献血の絵」ポスター展	神奈川県・日本赤十字社神奈川県支部及び神奈川県赤十字血液センターでは、小・中学生に、献血についてもっと知ってもらうため「私たちと献血」をテーマに毎年、献血を題材にしたポスターを募集。 平成25年度は、小・中学校併せ211校から1,359点の応募があった。
コンクール・コンテスト	日本赤十字社	若い世代への献血普及啓発	いのちと献血俳句コンテスト	小中高生を対象に、俳句コンテストを実施

3. 北方領土返還要求運動の教育面における在り方に関する調査(事例調査)

事例3 献血普及に関する運動

活動カテゴリ	団体	テーマ	活動内容	概要
参加型	日本赤十字社	若い世代への献血普及啓発	ボランティア育成	高校生献血推進ボランティア育成事業 高校生たちにボランティアとして、参加してもらい、パネル展示や献血の実施、セミナーの受講などをもつた ・献血セミナー受講 ・献血啓発パネル・ポスターの展示 ・献血啓発DVDの上映 ・献血クイズの実施 ・献血啓発パンフレット、ティッシュ、クリアファイルの配布 ・献血アンケートの実施 ・自作の啓発パネルや血液健康レシピの作成展示 ・校内献血の実施
参加型	オイスカ高等学校		卒業献血	オイスカ高校では、毎年卒業を控えた3年生たちが中心となった「卒業献血」。
参加型	日本赤十字社	青少年赤十字のリーダーの養成	青少年赤十字スター・センター	青少年赤十字スター・センターを開催。 講義や地域住民への聞き取り調査、ワークショップなどのさまざまなプログラムで構成
その他	千葉県	献血に関する適正な知識の普及	テキストの作成	中学生用テキスト「教えて！献血ワールド」を作成し、県内の中学校3年生に配付
体験型	日本赤十字社	リーダー育成	リーダー育成	兵庫県中学校・高等学校青少年赤十字春季リーダーシップ・トレーニング・センターにて講習のほか、フィールドワークやグループワークを実施
体験型	日本赤十字社	正しい知識を身につける	講演、見学、グループワークなど	高等学校協議会 平成22年度第3学期生徒例会 「献血について」の講演
体験型	日本赤十字社	指導者の育成	指導者研修	青少年赤十字指導者研修会 指導者となる先生が参加し、ワークショップやフィールドワークを行った
体験型	日本赤十字社	高校生に体験させてリーダーを増やす	高校生の集団献血	日赤の担当者が県内高校の献血実施一覧表を示し、当然のように献血実施日の回答を求めたり、知事が高校生の集団献血をすすめる立場で年間行事に位置付けるよう通知を出している県もある
体験型	日本赤十字社		職業体験	「牛田中学校の生徒4名が、献血ルーム『ピース』で職場体験。 生徒4人中3人が将来看護師を希望しているということで、看護師の仕事についての見学、腕モデルを使った注射のシミュレーションを体験
その他	日本赤十字社		献血	運動会会場での献血の実施
その他	横島小学校		テキストの授業での活用	横島小学校では、6年前から日本赤十字社の献血テキストを使って、血液や命、献血の授業を主に理科の授業で行っている
その他	箕面市立西南小学校		献血	オープンスクールでの献血の実施

事例候補 4 グリーンカーテンプロジェクト

平成26年～

環境省では、低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」の一環として、夏のCO2削減及び節電を目的に、ゴーヤやアサガオなどのつる性植物を育てて作る「グリーンカーテン」を推進する『グリーンカーテンプロジェクト』への参加を呼び掛けている。

環境省

CO2削減・夏の節電対策として、「グリーンカーテン」を推進したい

↓
「グリーンカーテン」の取組に関する情報を募集。
「グリーンカーテンプロジェクト」の特設ページを開設し、活動事例紹介や、作り方等の啓発ツールを提供。

地方自治体

地域での浸透を目的として活動
地域の団体や個人で取り組んでもらえるよう、活動を支援

深谷市、香川県など

住宅・事業所に設置した「緑のカーテン」のコンテストを実施
↓
活動に参加することへの意欲を高めてもらう

深谷市、沼田市など

市民へのゴーヤ苗や種の無料配付
↓
無料配布することで、参加へのきっかけをつくる

学校

部活動や授業の一環として活動
自分たちでできる地球の環境を守る取り組みとして、学校内で実践

水戸市立新荘小学校

毎年5年生がリーダーとなり、苗の育成から始める
↓
毎日の成長を自分の目で見ることで、楽しみながら取り組める

廿日市（はつかいち）
高校
定時制 園芸部

園芸部の活動として、校舎全体で実施
↓
他の生徒の目に見えることで、活動へのモチベーションが高まる

3. 北方領土返還要求運動の教育面における在り方に関する調査(事例調査)

事例候補4 グリーンカーテンプロジェクト

活動カテゴリ	団体	テーマ	活動内容	概要
部活動での取り組み	甘日市高校	校内緑化エコ活動の一環	園芸部での活動	園芸部で、校内緑化エコ活動の一環として、グリーンカーテンを実施
参加型	東京ヴェルディ	ボランティア	種を配布	稲城市立稲城第三中学校の生徒さんたちと一緒に、京王相模原線稲城駅でゴーヤやアサガオ、トマトなどの種を配布
参加型	織部学園高校		学園祭でのパネル展示	多治見でグリーンカーテンを育てている人を取材して、織部学園高校の学園祭でパネル展示
参加型	前橋清陵高校	省エネと環境教育	生徒有志による参加	2011年より省エネと環境教育を目的として、グリーンカーテンづくりを実施。生徒有志による参加で、教育面などで有意義なものに。
参加型	水戸市立新荘小学校	地球温暖化のことを学び、自分たちでできる地球の環境を守る	毎年5年生によるグリーンカーテン	毎年5年生がリーダーとなり苗の育成から行っている。
参加型	関西電力	環境啓発	子どもと一緒に苗植え	関西電力では、2008年度から地域の小学校に対して、「グリーンカーテン」を用いた環境意識啓発活動を行っている。当社社員が小学校へ赴き、子どもたちに「グリーンカーテン」の目的や効果、作り方をリーフレットによってわかりやすく説明し、一緒に苗を植えている。
体験型	伊丹市立東中学校など		自由研究のテーマに設定	伊丹市では理科の自由研究のテーマにグリーンカーテンを選んだものがいくつかある
体験型	横浜市高田小学校	数値化してわかりやすい結果で生徒のモチベーションを上げる	温度測定会の実施	高田小学校で緑のカーテン温度測定会が行われました。緑のカーテンの表と裏の温度比較、緑のカーテンとアスファルトやグラウンドの温度を放射温度計を使って児童たち自らが測定を行いました。また、サーモグラフィを使って温度分布の観察を行いました。
体験型	今町中学校	食育との連携	グリーンカーテンで実ったゴーヤを給食利用	今町中学校では、校内で実ったゴーヤを使ったカレースープが給食に出されました。給食に出されたゴーヤは学校のグリーンカーテンで実ったもの。
コンテスト	さいたま市	児童・生徒の環境保全と環境美化に関する意識を高める	コンテスト	さいたま市学校の緑のカーテンコンテストを実施。平成24年度からすべての市立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で取り組んでいるため、学校を対象にコンテストを開催
コンテスト	松橋市及び松橋市地球温暖化対策地域協議会	児童・生徒の環境保全と環境美化に関する意識を高める	コンクール	平成21年度から緑のカーテンコンクールを実施
コンテスト	大分県		緑のカーテンフォトコンテスト	

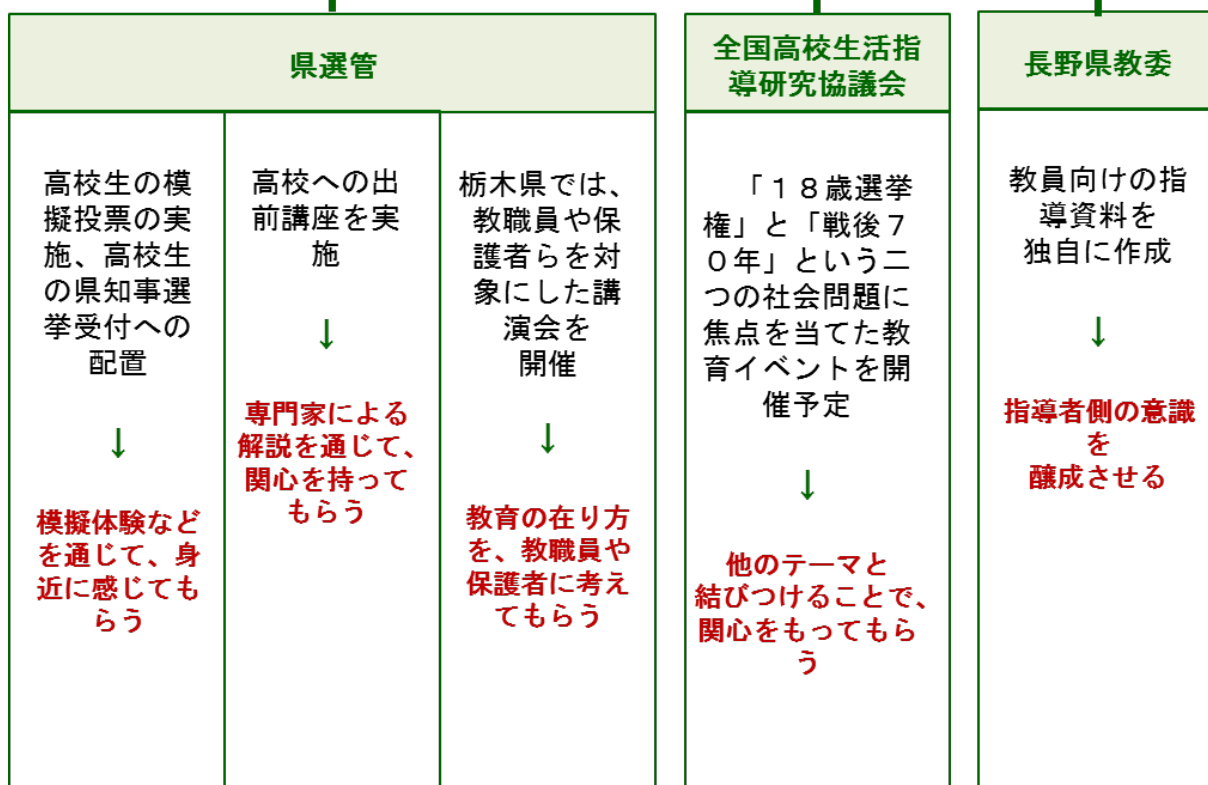
事例候補 5 18歳選挙権に関する運動

選挙権年齢を現在の20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が2015年6月17日に成立。2016年夏の参院選から適用される方向となっている。これを受け、高校生を始めとする若年層に対し、政治や選挙への関心や意識を高めてもらうための取り組みが実施され始めている。

総務省 文科省

18、19歳の若者に投票所へ足を運ぶ大切さを啓発したい

政治の仕組みや選挙の意義を分かりやすく解説した副教材を全国の高校に配布



3. 北方領土返還要求運動の教育面における在り方に関する調査(事例調査)

事例候補④ 18歳選挙権に関する運動

活動カテゴリ	団体	テーマ	活動内容	概要
部活動での取り組み	郡山東高新聞部		新聞部での特集企画	「郡山東高校新聞第176号」で、18歳選挙権に関する特集を企画。全校生徒へのアンケートに加え、県選管や専門家へのインタビュー、生徒の生の声など、さまざまな取材を敢行
アンケート	宮崎県選管	有権者としての意識醸成	アンケート	県内の高校生約3万3000人を対象に「もうすぐ有権者！高校生3万人アンケート」を今月実施。県選管担当者は「アンケートに回答することで近く有権者になるとの意識を持ってもらい、高校生の知識を把握して主権者教育の足掛かりにしたい」と話した。
講義	岐阜県関市桜ヶ丘の関高	政治を自分のこととして捉え、選挙で意思表示することが大切	講師による説明	主権者教育の一環で、朝日大(瑞穂市種穂)法学部の大野正博教授が講師を務め、政治や選挙の仕組みについて説明した
講義	仙台市	学校の役割や政治問題の教え方を考える	主権者教育セミナー	県内や山形、茨城などから高校教員ら約70人が参加。主権者教育の実践例が紹介された。
講義		啓発リーダーの養成	人材を育成	若年層(18～35歳)を対象にした「選挙啓発リーダー」の養成研修を開催
授業	小学校	主権者教育	新聞を活用した授業	新聞を活用した授業内容を展開。児童は2人で1台使えるタブレット端末を使い、新聞記事検索のほか、「世論調査」「政党」「小選挙区」「比例代表制」「ドント方式」「ネット選挙」「選挙公報」「出口調査」などをキーワード検索してリアルに進行する選挙を積極的に調べた。
体験型	千葉市	高校生でも投票できるようになるという意識を強く持ってほしい	イベント	・高校生が受け付けなどを担当。 ・大学生と高校生を対象に啓発イベント「いざね若者選挙プロジェクト2015」を開催
体験型	福島県選管など	選挙を身近に感じてもらう	模擬投票	25年の参院選では実際の投票票終了後、候補者に投票する形で模擬投票も行った。
出前授業	秋田県選管など	選挙を身近に感じてもらう	出前講座	秋田県選管では高校生が模擬投票するイベントや、県選管と民間の果敢ある選挙推進協議会が県教委と連携、高校への出前講座を実施
出前授業	岩手県選管など	選挙を身近に感じてもらう	出前授業	県選管と県教委などが連携して18年度から選挙に関する出前授業を展開。
出前授業	青森県選管など	政治参加の意識醸成を図る	出前講座	授業の一環として約50分の出前講座を昨年度、小・中学校、高校合わせて12校で実施
副教材	文科省	学校での政治的教養を育む教育の充実	副教材を作成・配付	高校生向け副教材を制作。選挙や投票の仕組みなど基本的知識に加え、討論や模擬投票など体験学習を促すため事例を盛り込んだ。
模擬投票	横浜市	身近な事例で投票を行うことで、選挙の仕組みなどを理解してもらう	模擬投票	給食のデザートを選ぶ模擬投票を実施。公立小学校で6年生の児童が“有権者”となり、給食のデザートを選ぶ模擬投票を実施。児童は、数人の候補者から、イチ押しのデザートの演説を聞いた後に投票。最多得票のデザートが給食に登場
模擬投票	板橋区立小学校	身近な事例で投票を行うことで、選挙の仕組みなどを理解してもらう	模擬投票	給食メニューの模擬投票